

宜 基 渉 第 27 号  
平成 27 年 10 月 19 日

第三海兵遠征軍司令官

沖縄地域調整官 ローレンス D. ニコルソン 中将 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

普天間飛行場における米軍機による騒音等について（抗議）

本市はこれまで、市民生活への影響が特に大きい騒音については、機会があるごとに抗議・要請を行っており、直近では先々月の 8 月 14 日と先月 9 月 7 日にも、夜間飛行及び住宅地上空における旋回飛行訓練について、貴職をはじめ、沖縄防衛局長及び外務省沖縄事務所沖縄担当大使へ厳重に抗議・要請したところである。

しかし、それにもかかわらず、これらの抗議・要請後も何ら状況は改善されておらず、米軍機飛行に伴う騒音が繰り返されており、先週 10 月 14 日から 15 日にかけて午後 10 時以降の夜間飛行や住宅地上空での旋回飛行等が再び確認され、本市へ寄せられた市民からの苦情は両日だけで 24 件にのぼっている。市民の負担感は頂点に達しており、普天間飛行場の運用が市民生活への配慮を欠き、大きな影響をあたえ続けていることは、断じて許されるものではなく、極めて遺憾である。

このような中、今月 10 月 7 日には沖縄防衛局から「普天間飛行場における回転翼機の飛行状況調査結果について」が公表され、その中で平成 26 年度における MV-22 オスプレイの飛行回数については、2,735 回で前年度より 1.6 倍の増加、夜間飛行の回数に至っては 137 回と前年度より 2.3 倍の増加となっており、この調査結果からも普天間飛行場の基地負担が増加傾向になっている事が浮き彫りとなっている。

これまで、普天間飛行場の危険性除去や基地負担軽減について強く要請し続けてきたにもかかわらず、それに逆行するような結果が示されたことは、断じて容認できるものではない。

については、市民生活に重大な影響を及ぼす夜間飛行と、住宅地上空における旋回飛行訓練について厳重に抗議するとともに、市民の声を真摯に受けとめ、普天間飛行場におけるオスプレイをはじめとする航空機の運用を改善するよう強く求める。